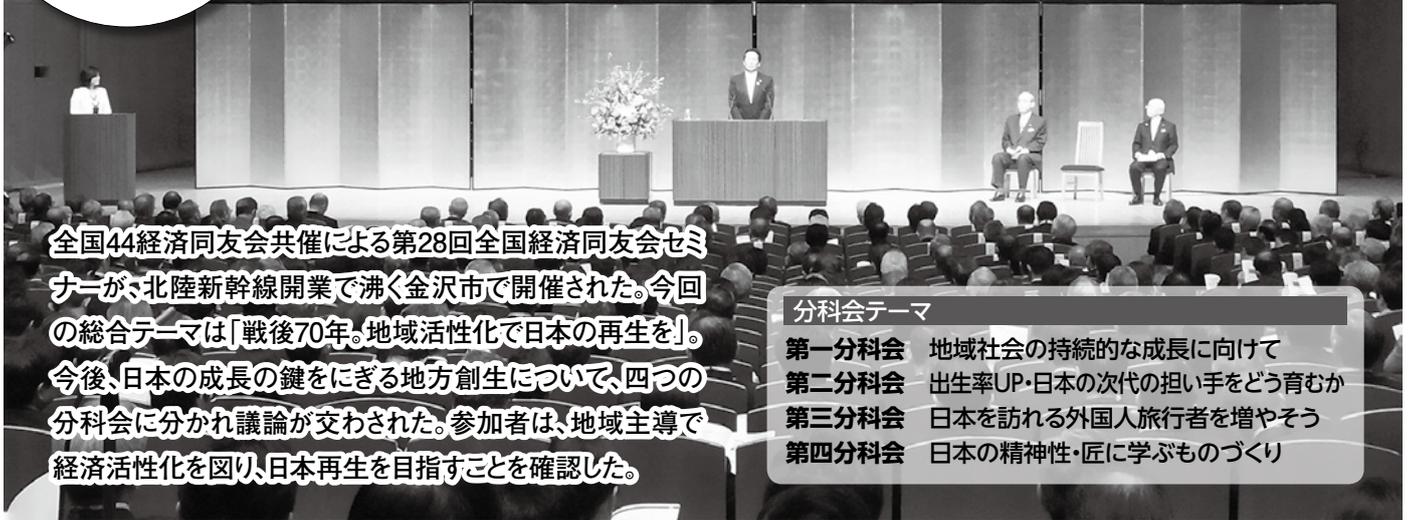


全国44
経済同友会共催
**第28回
全国経済同友会
セミナー**
(4月16日・17日開催)

戦後70年 地域活性化で日本の再生を



全国44経済同友会共催による第28回全国経済同友会セミナーが、北陸新幹線開業で沸く金沢市で開催された。今回の総合テーマは「戦後70年。地域活性化で日本の再生を」。今後、日本の成長の鍵をにぎる地方創生について、四つの分科会に分かれ議論が交わされた。参加者は、地域主導で経済活性化を図り、日本再生を目指すことを確認した。

分科会テーマ

- 第一分科会 地域社会の持続的な成長に向けて
- 第二分科会 出生率UP・日本の次代の担い手をどう育むか
- 第三分科会 日本を訪れる外国人旅行者を増やそう
- 第四分科会 日本の精神性・匠に学ぶものづくり

新幹線開業に沸く 金沢市での開催 参加者は過去最多1,355人

金沢市の無形文化財に指定されている「金沢素雛子」で始まった今回の全国セミナーの参加者は、過去最多の1,355人となった。

開会挨拶には柏木斉副代表幹事・全国経済同友会セミナー企画委員会委員長(当時)が登壇し、「地方創生の担い手は、われわれ経営者であるという覚悟と勇気を持って改革に踏み出すべきだ」と参加者に呼び掛けた。歓迎挨拶に登壇した安宅建樹金沢経済同友会代表幹事は「北陸新幹線開業効果が一段落した後も、この地域が引き続き輝いていけるよう真剣に取り組んでいきたい」と

述べ、持続的な地域活性化に触れた。

続いて、谷本正憲石川県知事の歓迎挨拶、近藤誠一前文化庁長官による基調講演(次頁参照)が行われた。その後四分科会に分かれ、地域活性化について議論が交わされた。

分科会報告 議長より

■第一分科会

地域社会の持続的な成長に向けて

議長：富山 和彦 経済同友会副代表幹事

地方が持っている本当の比較優位は何かという問題提起があった。例えば中所得レベルの人々にとっては地方の方が東京よりも圧倒的に豊かな生活ができる。また、出生率も高い。しかし、一方で地方では非常に深刻な人手不足

が起きている。これをどう解決していくか。地域社会の持続的な経済成長のためには、地域に密着した企業の競争力、生産性を高めなくてはならない。そのためには、企業の淘汰、再編といった新陳代謝を進めていく必要がある。そして、中央からの資本や誘致に依存した形ではなく、産業や企業が経済体として自律していくことが課題となる。これからの地方創生の主役は、官ではなく民であるとの共通認識を持つことが必要だ。

■第二分科会

出生率UP・日本の次代の担い手をどう育むか

議長：種村 均 中部経済同友会代表幹事

少子化の問題は官だけでなくわれわれ民間も含め、国民すべてが総力で取



第一分科会



第二分科会

り組まなければならない極めて喫緊の課題である。安心して子育てができる環境整備の一つは、共働きを前提とした働き方への風土改革である。各社がワーク・ライフ・バランスを掲げるが、まだまだ認識が甘く、風土として浸透していない。これを打破するためには、企業のトップ自らの認識と決断が必要となる。われわれ経営者は、高い給与水準の職場をつくり出すこと、柔軟な労働環境を整えることを実現させなければならない。女性の雇用と活躍を推進するためには、特に男性の意識改革、非正規雇用における格差の是正、保育所の整備や待機児童の解消などに取り組み、社会的にも理解を深めていくべきだ。

■第三分科会

日本を訪れる外国人旅行者を増やそう
議長：安宅 建樹 金沢経済同友会代表幹事

日本を世界に発信する、外国人旅行者の受け入れ環境を整備する、地域の財産に磨きを掛ける、の三つの論点について議論した。訪日外国人旅行者数は過去最高になったが、東京、大阪、京都に観光客が集中しているという地域偏在をどう解決するかが課題である。経済的にも精神的にも豊かになれる観光振興は、地域主導型でしかできない。アピールのためには地域の歴史、文化、魅力を正確に分かりやすく伝える説明能力が不可欠であり、地域主導の下、官民が一体となって、県境にとらわれない広域観光の視点が重要だ。

■第四分科会

日本の精神性・匠に学ぶものづくり
議長：村尾 和俊 関西経済同友会代表幹事

ものづくり大国・日本の復活を目指すべきではないかとの問題提起に基づき議論した。匠の技術は、京都西陣織といった工芸品のみならず、最先端の工業製品にも応用されている。自分たちの強みを再認識し、新たな価値創造を追求することが大切である。さらに、自分たちの強みをコアとして、他社との協業で新たな企業価値を生むことも考えなければならない。豊かな自然の中で育んできた日本の精神文化に裏打ちされた匠の技術伝承の中には、世界で強いものづくり大国として再びよみがえるためのヒントがある。



第三分科会



第四分科会

基調講演

21世紀：日本の再生、世界への貢献と地方の役割

近藤 誠一 氏 前文化庁長官、近藤文化・外交研究所代表



われわれは今、世界規模で「グレート・リセット」とも呼ばれている大きな変革の渦の中にある。しかし、大きな渦の中にあると全体が見えない。そこで起こっていることは、リベラ

ルデモクラシー（自由民主主義）の行き詰まりだ。リベラルデモクラシーこそが理想的で普遍的なシステムであるが、それを担っている近代国家が機能していない。それは、「アラブの春」の失敗やアメリカの格差拡大などに見ることができる。大事なのは、責任・モラルを持ってリベラルデモクラシーを適切に運営していくことだ。

私は、日本が大事にしてきた精神がリベラルデモクラシーの運営に役に立つと思っている。例えば自然と一体となる自然観、曖昧さを受容す

る感性、目に見えないものに価値を見いだす価値観などだ。相手の心を尊重する日本人の心構えが世界に広がれば、リベラルデモクラシーをもっとうまく運用できるだろう。

もう一つの課題は、それをどこで実現していくのかということ。それには国も大事だが、もっと効果的にできるのは地方だと思う。グローバル化が進む中で、一人ひとりがアイデンティティを持つのは、やはり自分が生まれ育った都市・地域であり、決して国ではない。そして、地方にはそれぞれの歴史や伝統に根ざした固有の文化的な価値があり、素晴らしい自然がある。これからの社会を進展させていくのは、伝統的な精神文化が根付いた日本の地方なのだ。